

教育相談の意義と役割

Q1 学校における教育相談の意義や役割をどのように考えればいいのでしょうか？

教育相談とは、「個人のもつ悩みや困難の解決を援助することによって、その生活によく適応させ、人格の成長への援助を図ろうとするもの」（1981年 文部省）です。

また、「教育相談は、生徒指導の一環として位置づけられるものであり、その中心的役割を担うものである」（1990年 文部省）とされています。

学校には、いろいろなタイプの子供が在籍しており、性格や特性はもちろん、育ってきた環境は様々です。当然、「個人のもつ悩みや困難」の状況も様々で、「その生活によく適応」できない児童生徒が増加しています。

また、教育相談は生徒指導と対立するものであるという誤解があり、その結果として教育相談が十分に機能していない状況もしばしば見られます。

教育相談の意義や役割をどう考えればいいのでしょうか？

ここでは、「不適応行動への対応」を中心として説明します。

不適応行動とは

不適応行動は次の二つに分けられます。

- ①暴力や非行などのように他者に迷惑を及ぼす「反社会的行動」
- ②不登校やひきこもりなどのように社会的適応が難しい「非社会的行動」

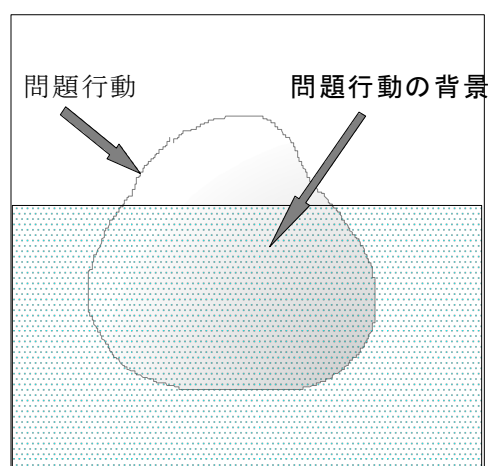
これらの問題行動を理解して対応する場合には、「水面に浮かぶ氷の原理」（1992年 中山）がヒントになります。

水面に浮かぶ氷の原理

表面に表れている問題行動は、水面上に出ている、目で見ることができる氷の部分に相当し、問題行動を生み出している背景（家族関係、生育歴、友人関係など）は、目で見ることができない水面下の氷の部分に相当します。

水面上の氷の部分をいくら抑えつけて沈めても、その手を離してしまえば再び浮かびます。→一時的に抑えても問題行動は再発

水面上に現れている氷の部分の少なくしようと思えば、むしろ水面下の氷の部分を溶かすことが早道です。→問題行動の背景に注意を向け、理解するよう努めることが大切



つまり、児童生徒の話丁寧に聴き、一緒に考えていこうという教育相談の姿勢は、問題行動の背景の理解につながり、問題は解決に向かいます。

教育相談の機能とは

では、どうして教育相談の姿勢が問題行動の解決につながるのでしょうか。
次のように考えられます。

①心が軽くなる

背負っていた荷物を下ろすと肩が楽になるように、今まで抑え込んでいたもの（我慢していたもの）を話すことで、心が楽になります。また、自分を守るために費やしていたエネルギーを、解決のためのエネルギーに変えることができます。

②心が整理される

迷っていること、悩んでいることなどの話を上手に聴いてもらえると、問題点が整理されてきます。迷いや悩みの元が明らかになると、解決の方向性が見えてきます。

③自己肯定感が高まる

丁寧に聴いてもらうことで、自分は大切にされているという安心感が生じ、自己肯定感につながります。ありのままの自分を理解してもらえると実感があると、自己をアピールするために行っていた特別な行動が必要ではなくなります。不適応行動に費やしていたエネルギーを、前向きな行動のエネルギーに変えることができます。

④自分をコントロールできるようになる

自己を客観的に観察し、素直に感情を表現する体験を通して、自己理解が進み、自分を抑制したり、主体的に行動したりできるようになります。他に流されやすい児童生徒には特に価値の内面化が大切になります。

⑤受容を通して人間関係についての理解が深まる

自分自身を否定されずに、話を受容しながら聴いてもらうと、児童生徒は自己を受容できるようになります。その結果、まわりの人をも受容できるようになり、人間関係についての理解が深まります。

これらの教育相談の機能を通して、児童生徒は問題行動の解決に向けて、自ら歩みを進めていきます。

以上は不適応行動の問題解決に向けての教育相談の機能です。教育相談の考え方や姿勢は、既に不適応行動を起こしている児童生徒への対応ではありません。不適応行動の予防や個々の能力や可能性の開発にも効果が期待できます。

また、不適応行動の予防や問題解決を図っていく上で、教師が児童生徒と望ましい人間関係を育んでいくことは大事です。そのためには十分な児童生徒理解が必要となってきます。

ただし、教育相談は万能ではありません。犯罪性のある行為、自他の安全を脅かす行為については、毅然とした態度で責任をとらせることが必要です。